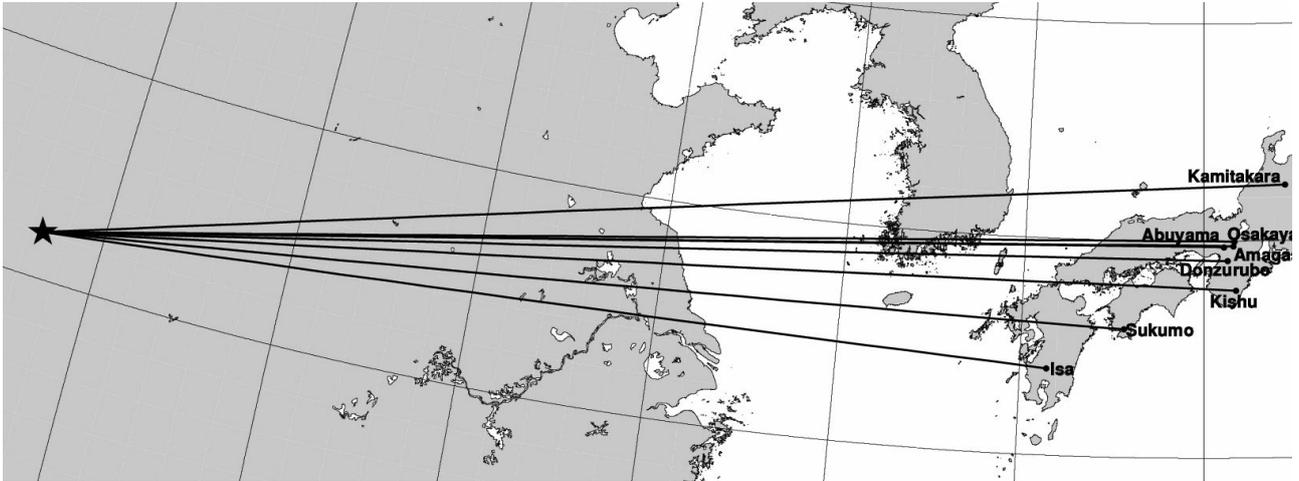


1 1 - 8 2008年5月12日 中国四川省地震による歪地震動
(京都大学防災研究所 近畿・北陸地殻変動総合観測線)
Strain seismograms at 8 observatories in south-west Japan by the Eastern Sichuan
Earthquake on 12 May 2008

京都大学防災研究所地震予知研究センター
Research Center for Earthquake Prediction,
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

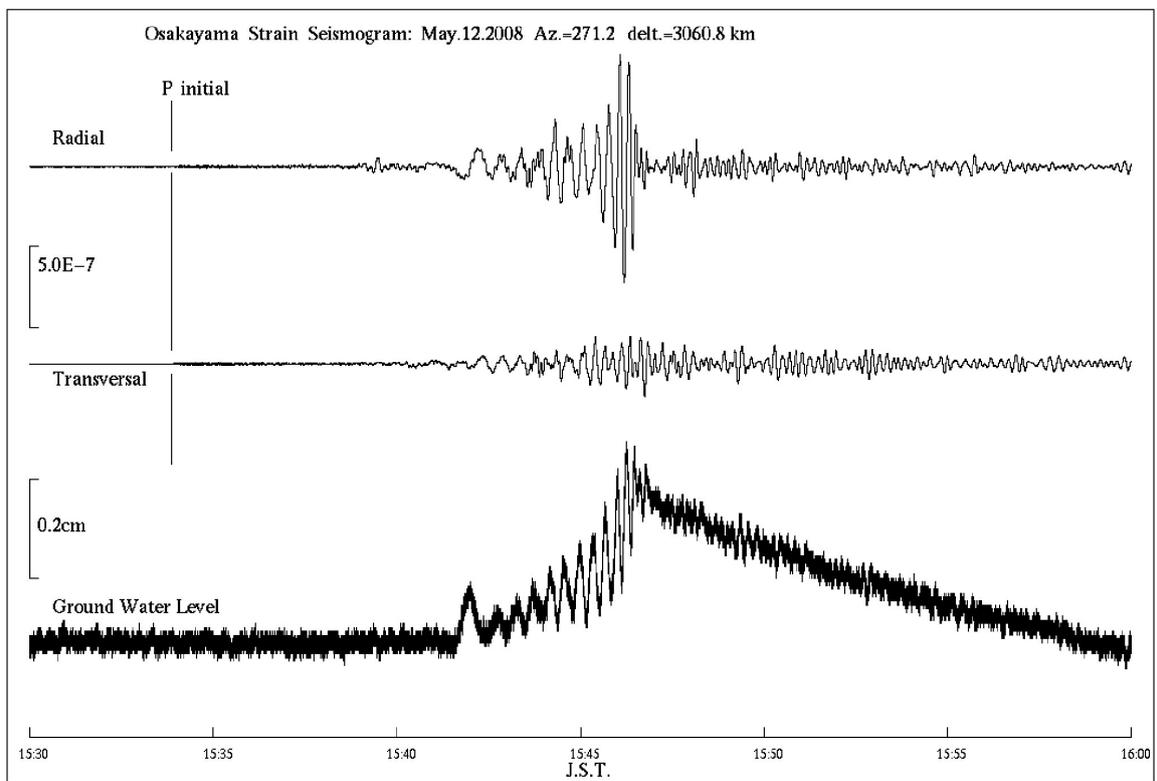
中部・近畿から九州に至る8観測所での、3成分伸縮計のひずみ記録から震源方向と直交方向とに分けたひずみ地震動記録を示す。時間軸は15:30 JSTからの30分間であるが「紀州」のみ観測システムの絶対時刻が保証されず、ほぼ30秒のずれがある。地図は正距等角図法により波動の到来方向が分かるようにしておりまた図中にも方位角を示しているが各点ともほぼ真西から来ている。サンプリングは1秒、但し逢坂山は50Hz、屯鶴峯は10Hzである。最大振幅の部分は波動の進行方向の振幅が大きく直交方向には小さくて Rayleigh 波によるひずみ変化と考えられるが、観測点によりその様相がかなり異なっている。逢坂山の地下水位記録も併せて示す。地下水位は水の流動が追いつかない間は振動を繰り返しながら上昇を続けたがその後平衡状態に向けて下降し、この図の後もずっと下降を続けた。

(森井 亙・大谷文夫・寺石眞弘)



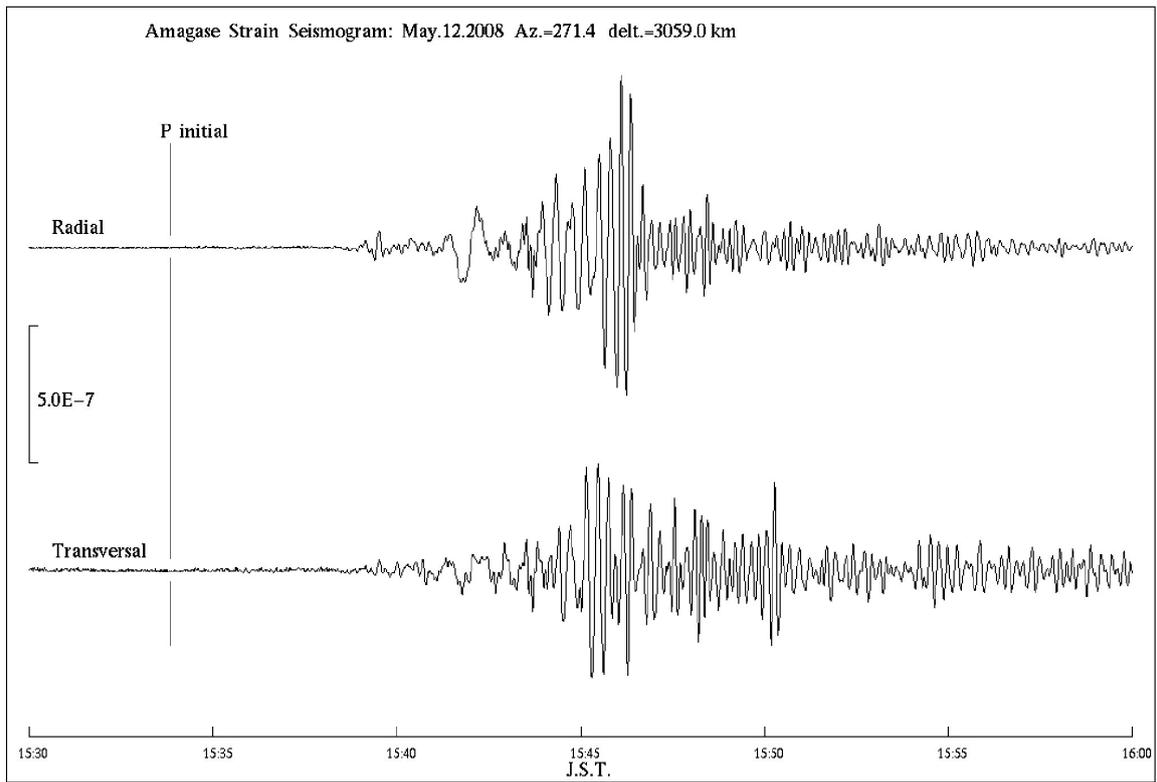
第1図 観測点と震源位置 (USGSによる)

Fig.1 Location of observatories and the epicenter of M7.9 Sichuan Earthquake, China, determined by U. S. Geological Survey on the azimuthal equidistant projection map.



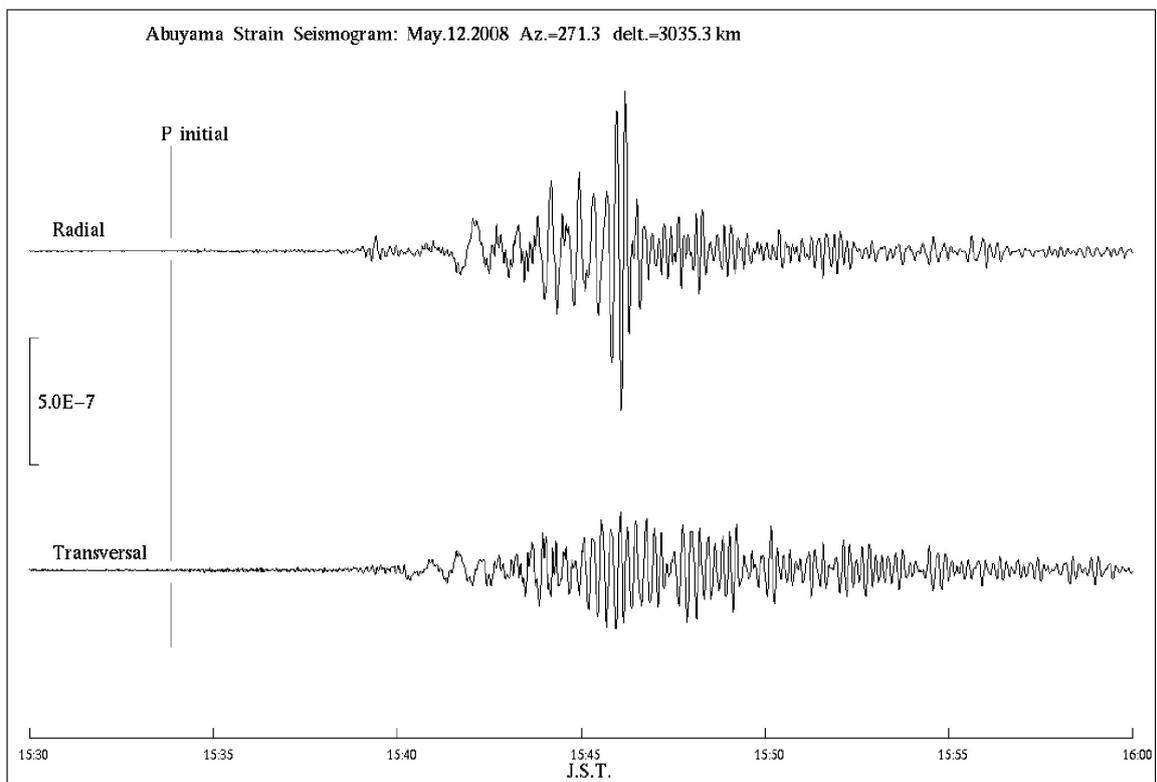
第2図 逢坂山観測所で観測された歪地震動

Fig.2 Strain seismogram at Osakayama observatory.



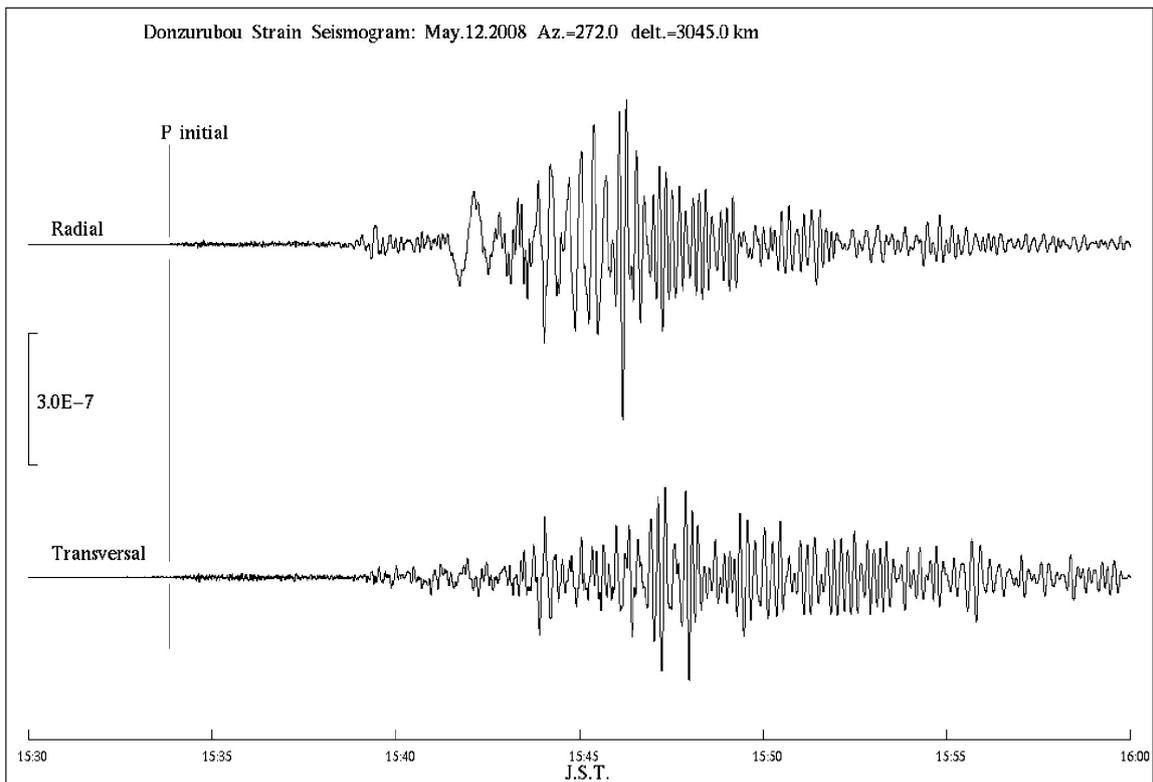
第3図 天ヶ瀬観測所で観測された歪地震動

Fig.3 Strain seismogram at Amagase observatory.



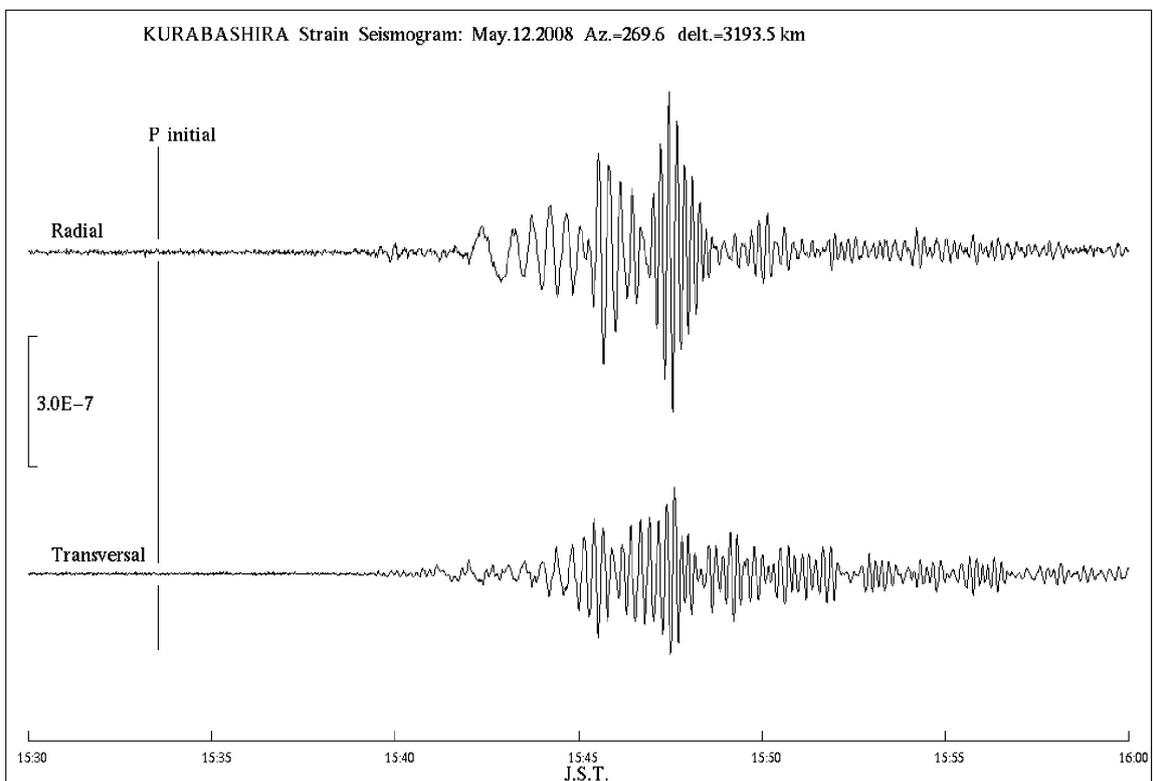
第4図 阿武山観測所で観測された歪地震動

Fig.4 Strain seismogram at Abuyama observatory.



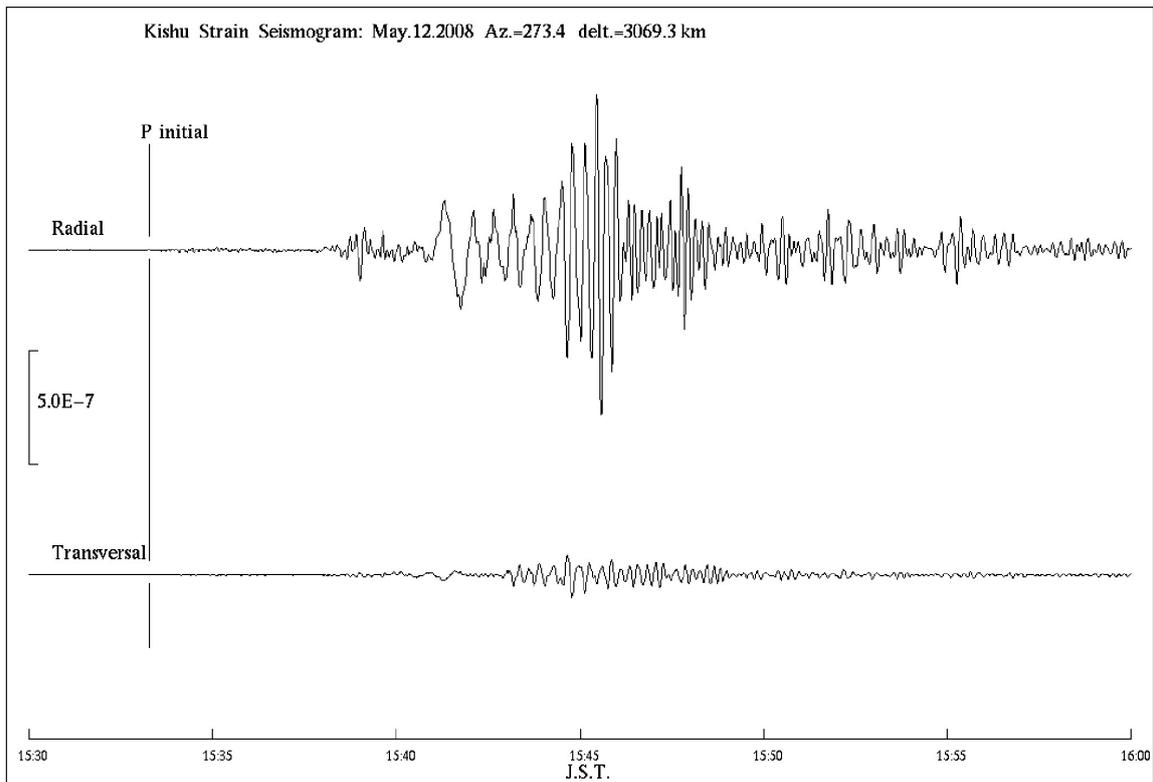
第5図 屯鶴峯観測所で観測された歪地震動

Fig.5 Strain seismogram at Donzurubo observatory.



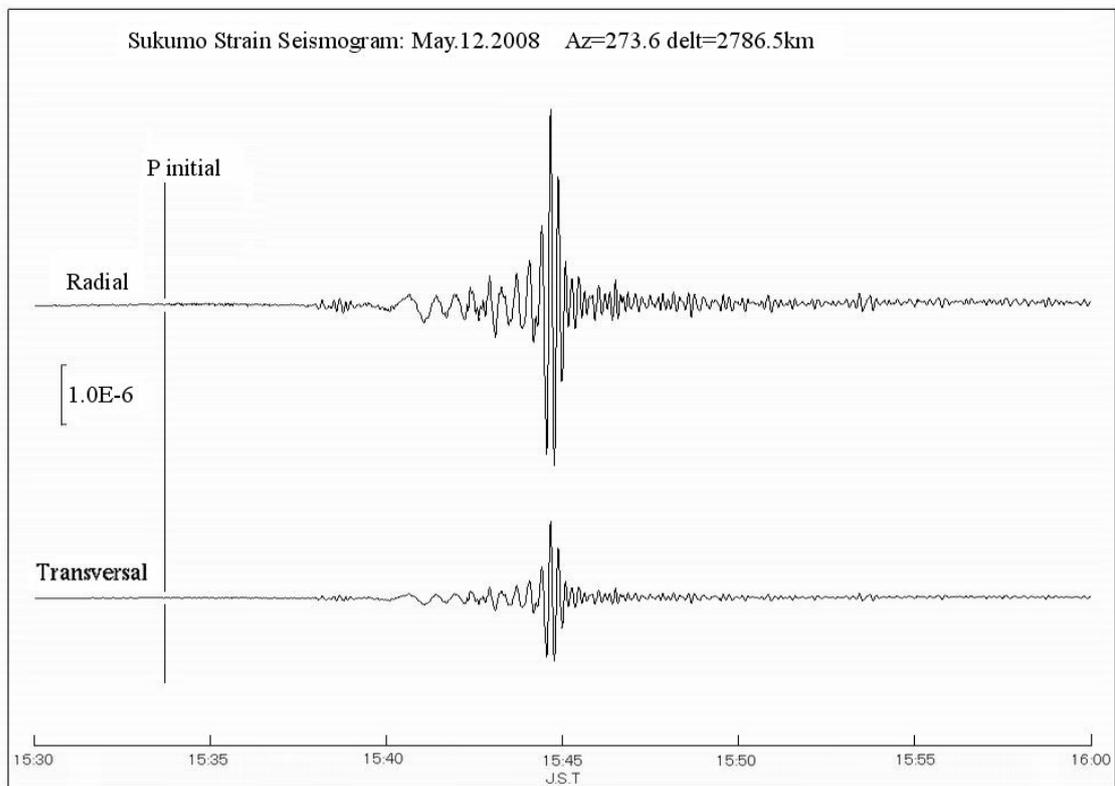
第6図 上宝観測所蔵柱観測室で観測された歪地震動

Fig.6 Strain seismogram at Kurabashira observatory.



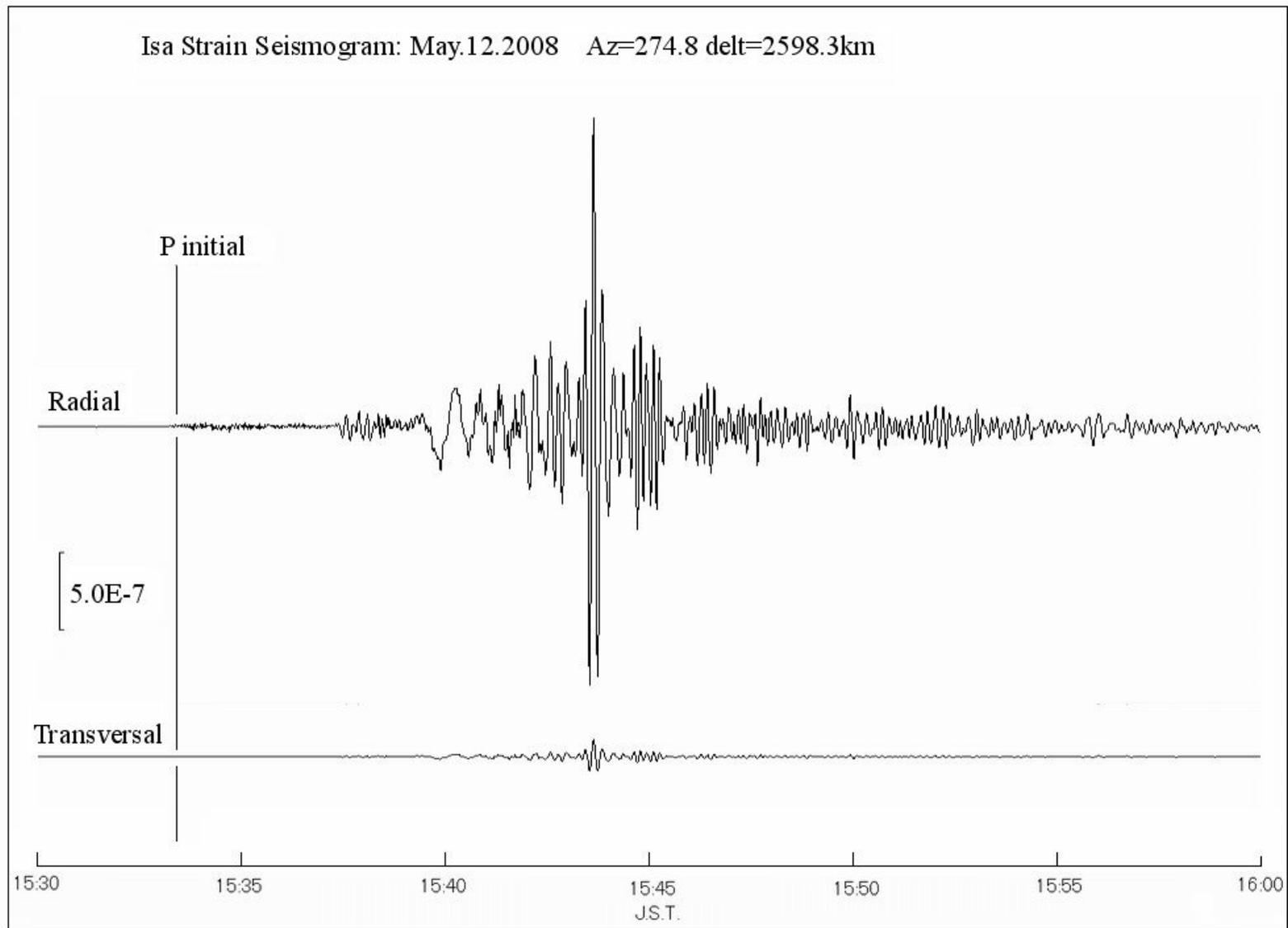
第7図 紀州観測所で観測された歪地震動

Fig.7 Strain seismogram at Kishu observatory.



第8図 宿毛観測所で観測された歪地震動

Fig.8 Strain seismogram at Sukumo observatory.



第9図 伊佐観測所で観測された歪地震動
Fig.9 Strain seismogram at Isa observatory.